

蝌蚪の紐

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村上, 丘 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6570

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



蝌蚪の紐

村上 丘

〈デジタル〉と〈アナログ〉という用語は、巷でよく耳にします。両者は対立的に使われますが、それぞれ異なる言語に由来します。〈デジタル〉は、ラテン語の「指」という語が語源です。一方、〈アナログ〉は、ギリシア語の「比例」という語に遡ることができます。

〈デジタル〉は、連続的な情報を離散的な信号で表示します。たとえば、〈デジタル〉式体温計では、文字盤の数字が別な数字に変換します。一方、〈アナログ〉は、連続的な情報を継起的な信号で表示します。〈アナログ〉式体温計では、容器の水銀が漸次的に移行します。

滑り台は、〈デジタル〉と〈アナログ〉の両面を持つ遊具です。地面から頂上へ移動する際に使われる階段は段差があります。階段は、〈デジタル〉の原理で構築されています。一方、頂上から地面へ滑降する際に使われる斜面は滑らかです。スロープは、〈アナログ〉の原理で作られています。

最近、量子コンピュータが注目されています。通常のコンピュータでは0か1かを選択し、同時に一つの状態しか表すことはできません。一方、量子コンピュータでは、二つの状態の〈重ね合わせ〉が可能で、0と1の状態を同時に表すことができます。

量子コンピュータで使われる〈重ね合わせ〉という言葉は、日常の用法と相違するに違いありません。しかし、牽強付会を承知で言うならば、〈重ね合わせ〉は興味深いキーワードです。なぜなら、異なる様式が同時に共存することは、文化現象においてしばしば観察されるからです。

今でも、神棚と仏壇の両方を有している家は珍しくありません。このような習俗は、神道と仏教の〈重ね合わせ〉ということができます。また、卒業式に、はかまを身につけた学生が、ブーツを履く姿が見受けられます。この身だしなみは、日本および西洋の習慣の〈重ね合わせ〉ということができるでしょう。

以上の観察に基づけば、何らかの現象を記述するには、三つの視点を取ることができそうです。一つ目は、〈アナログ〉な現象に着目することです。二つ目は、〈デジタル〉な現象に注目することです。三つ目は、〈デジタル〉な現象において、対立する項目の〈重ね合わせ〉に焦点を絞ることです。

幼いころ、東北の里山で暮らしました。家屋の隣を流れる小川には、ヤゴ・タガメ・ゲンゴロウ・ミズカマキリ・ヒル・ドジョウなどが生息していました。小動物たちは、人の気配に気づくと、素早く砂の中に潜ります。その時に立ち上る水煙の違いで、砂に潜む正体を推測することができました。

春になり田圃に水が引かれると、蛙があちこちに産卵しました。産みたての卵塊は、日の光を浴びてキラキラと光っていました。手で掬い取ると、ゼリー状の卵塊はプルプルと震えました。透明な卵囊を通して手のひらが透けて見えました。至る所に、生命が漲っていました。

蛙の卵塊は、卵と卵囊の境界が明瞭であるという点では〈デジタル〉な存在です。一方、卵囊の形状が固定していないという点で、〈アナログ〉な存在です。さらに、卵と卵囊は生物学的情報を交換しており、〈重ね合わせ〉の部分も有しています。

研究論文の対象は、蛙の卵塊に例えることができるかもしれません。研究者が〈デジタル〉な部分、〈アナログ〉な部分、〈重ね合わせ〉の部分に着目することは、有用であると思われます。対象をこわさず、こぼさず、あまさず、すくい取ることで、全体像に迫ることができるように思われます。

この池の生々流転蝌蚪の紐 虚子